

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		PARCウィル大東				
		公表日				
		2026年 2月 13日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		個別支援計画の目標設定や振り返りを、全職員で共有し、改善点を話し合う機会を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		看護師・リハ職・児童指導員が保護者の意見を共有し、多職種で改善策を検討している。	評価表の回答率が安定せず、意見が偏ることがある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		看護師・リハ職・児童指導員など多職種が参加する会議を定期的に行い、医療的ケアや安全面に関する意見を共有している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		医療的ケアや身体機能の状態に応じて、看護師・リハ職（PT/OT/ST）・児童指導員が協働で支援プログラムを作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		医療的ケアの内容、身体機能、生活リズム、体調の変動などを看護師・リハ職・児童指導員が協働でアセスメントしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画を作成後、全職員が閲覧できるように共有フォルダやファイルで管理している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の活動や自由遊びの中での行動観察を行い、フォーマルな検査だけでは捉えきれない特性や強みを把握している。	観察記録が十分に蓄積されず、分析に活かしきれない場面がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインに示されている「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の視点を取り入れ、計画項目を体系的に整理している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別支援計画の目標をもとに、活動内容が適切に反映されるよう、定期的にミーティングを実施している。	繁忙期には十分な話し合いの時間が確保できず、担当者中心の立案になりがちな場面がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事・テーマ活動・感覚遊び・運動遊び・制作などを行っている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの体調・姿勢保持・医療的ケアの状況を踏まえ、個別活動と 集団活動を組み合わせ計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動中に急な体調変化が起きても対応できるよう、役割分担を柔軟に変更できる体制を整えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		多職種の視点を取り入れ、支援の質向上につながる改善案をその場で検討している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の活動や子どもの様子を記録し、職員間で共有することを徹底している。	記録をもとにした振り返りの場を定期的に設け、支援改善につなげる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングでは、子どもの発達状況・行動の変化・保護者の意向を確認している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			医療的ケアの必要性により、活動の選択肢が限られ、基本活動のバリエーションが少なくなることがある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		表情・視線・身体の動きなど、わずかな反応も選択のサインとして捉え、意思表示として尊重している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議前にチーム内で情報を整理し、子どもの発達状況・行動面・家庭での様子などを共有したうえで参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援専門員との連携を密にし、サービス担当者会議にも積極的に参加している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校から提供される 年間行事予定・学級通信・個別の支援情報 を受け取り調整を行っている。また保育所等訪問支援も行い情報の共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		開設間もないため就学前施設との連携実績はまだないが、今後に備えて連携方法や情報共有の仕組みを整えていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		開設間もないため就学前施設との連携実績はまだないが、今後に備えて連携方法や情報共有の仕組みを整えていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		ご利用時の状態をお伝えしたり、モニタリング時には見学にも来ていただき連携をとっている。またサービス担当者会議にも積極的に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		職員数が少なく、外部交流の準備に負担がかかりやすい。人員が整い次第地域とのつながりづくりを進めていきたい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		職員数が少なく、外部交流の準備に負担がかかりやすい。人員が整い参加を検討している
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ご利用時の写真や活動内容を具体的に記録し共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			個別相談の機会や保護者同士が情報交換できる場をつくる必要性がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		職員数が少なく、準備に負担がかかりやすい。人員が整い保護者会等の機会を設けていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月PARCウィル便りを発行し活動概要や行事予定を発信している。	SNSでの発信も検討し、保護者が目にしやすいよう工夫する必要がある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		職員数が少なく、外部交流の準備に負担がかかりやすい。人員が整い次第地域とのつながりづくりを進めていきたい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			契約時に安全計画について説明しているが、定期的に内容を確認、周知することが必要である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		再発防止の為全事業所で状況の確認、対応策などを検討し、職員への伝達も行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			